

ニューヨークに住む日本の「こどもたち

—「NYのこどものくに幼稚園」での学び—

鍋島 恵美

出会いは一枚の手紙から

二〇〇二年四月から一年間、長く教職に就く私にとつ

て学びの再構築の時を得ることができました。気分は、
るんるんと希望に満ちていました。「大学院修学休業制
度」を利用しての休職です。「NYのこどものくに幼稚
園」と私の出会いは、大学の研究室に届いた一枚の「幼
稚園教諭募集」の手紙からです。そこには、次のように

書かれていました。

こどものくに幼稚園はニューヨーク郊外にある日本語
の幼稚園で、二十五年以上母国語による幼児教育に取り
組んできました。日米両文化の恩恵を受けながら先生方
も幅広い体験をしていただけると思います。海外のため
なにかと制約の多い条件になりますが、日本での保育と

は違う体験をしていただけだと思います。

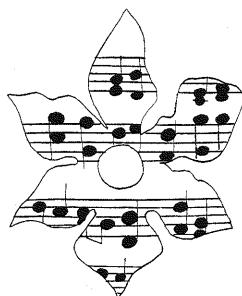
こどものくに幼稚園概要

一九八一年創立、クラス数六
クラス、園児数一一〇名（三・六歳）、職員二十名、
ニューヨーク市郊外、ウエストチエスターの高級住宅地
の一画にある建物を借用、日本人（殆ど駐在員）の為の
幼稚園です。プログラムは、日本での一般的な幼児教育
にアメリカの教育法を取り入れています。一クラスあたり
二十名（三歳）～二十四名（六歳）のこども達に担任
とアシスタントが二名から三名入っています（一人一人
の子どもの育ちをとても大切にしています）。四・六歳
児にはESLクラス、現地校との交流をはじめ、地域社会
への参加なども活発に行っています。

幼稚園教諭募集 資格・四年生大卒。幼稚園免許又は保
育士免許、担任の経験三年以上、三年任期、要英会話、
運転免許

ことばに興味を持つ私にとって、「母国語による幼児

教育」「日米両文化の恩恵」「日本での一般的幼児教育に
アメリカの教育法を取り入れる」「現地校との交流」「地
域社会への参加」と、目がランランと輝く用語が並んで
いました。そして、ニューヨーク。同時多発テロが起
こつて間もない地。「こどもたちはどうしているのだろ
う」との思い。しかし、私には職業があり、教員募集の
対象からはずれます。でも「こどものくに幼稚園」への
興味は日に日に募ります。「そうだ！ 就職はできない
けれど、研修をさせてもらうことはできるのではないか？」
という希望がでてきました。しかし「要英会話、
運転免許」が、次の難関です。家族をはじめ大学院の指
導教官や勤務園の上司に
その思いを伝えなんとか
了解を得て、園長先生宛
に私の履歴書と英会話は
堪能でないこと運転免許
がないことは正直に断



り、それでも熱き思いを綴った願い書をファックスしました。どのような返事が来るのかドキドキでした。しばらくして、次のようなメールが届きました。

とてもうれしいFAXをいただきました。長い間、こどもたちと関わつていらつしやり、そして再度学びの場を得られ、鍋島さんの意欲がひしひしと伝わってきました。とてもうらやましいお立場です。私は、一人でも多くの先生方に世界を観てもらいたいと常々思っています。ここニューヨークはアメリカのなかでも、高いレベルの教育が実践されているところです。日本の幼稚教育は、アメリカの流れとは違いますが、異文化を肌で学び取つてもらう場としては、多人種、多言語のニューヨークは最高でしょう。よい出会いとなりますよう、祈つております。

対して、こんな文面を書かれる園長のHさんに大変興味を持ちました。私の希望が現実となることに胸が高鳴りました。と同時に、滞在期間や宿泊所探しへと現実的な話を進めるなか一抹の不安もでてきました。

一方、責任感もひしひしと押し寄せてきます。「このものくに幼稚園から来てもいいって返事が来た！」と、こどもが喜ぶように伝える私の顔を見て、夫はなんとも言いようのない表情をしました。行くことに賛成はしたもののまさか現実になるとは思っていなかつたのかもしれません。二男と実母を夫に託して私の“魔女学校”修行の旅（魔女になつて遊んでいたことから勤務園の親子には、一年間の休職をこのように喻えて伝えていました）が始まりました。

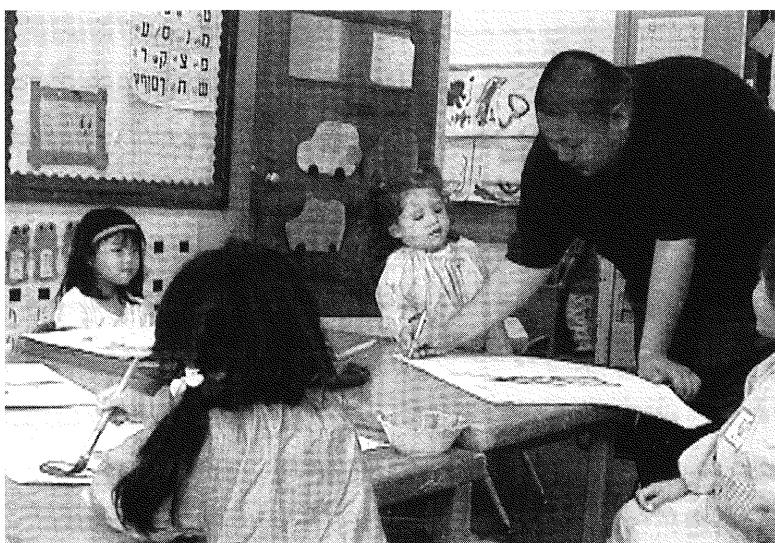
魔女学校 修行 春の巻

二〇〇二年四月一六日 NYJF空港に到着

私は、面識のない一介の教諭であり、院生である私に

アメリカは、ご存じのように車社会の国。しかし、

ニューヨーク市郊外ホワイトプレーンズは、バスやタクシーなどの乗り物が走っています。運転免許のない私はH先生はバスで幼稚園まで通える、おまけに徒歩圏内で買い物ができる所に住まいとなるアパートを探してくださいました。こどものくに幼稚園に採用され日本から赴任してきた先生たちは、アメリカ人の家を間借りして生活をしています。身近でアメリカ人の生活を体験してほしいという園の方針からです。英語でのコミュニケーションに堪能でない私には無理とのことで断念して単身生活です。十八日初めてバスに乗り幼稚園に出かけました。初めて乗るバス、緊張が高まります。されど、乗る人や降りる人を注視して真似しながらなんとかバスを降りました。そこから歩くこと十分、高級住宅地の新緑の木立や芝を眺めリスのお出迎えを受け、通り過ぎる車を背に到着。



▲こどもの遊び風景

はい、ここものくに幼稚園です

今までの緊張感が、すーと消えました。「おはようござります」と、幼稚園に着くなり八名の先生と事務の方から挨拶を受けました。ここは、日本語の世界です。耳を澄ましバス内のアナウンスや、同乗者の言語を聞き取

ろうとしていた自分の感覺が日本語を耳にしたとたん解き放たれやすらぎます。「ああそうか！ きっとここに来る子どもや保護者（母親）もみんな同じような安心感があるのだろう」と思いました。早々に登園してくる子どもたちを保育室に入つて待ちました。スクールバスを利用していく子ども、自家用車で送つてもらう子どもが次々登園してきます。みんな大きなりユックを背負つてきます。担任の先生が、それぞれのクラスについて登園するこどもたちを迎えます。「おはようございます」「お願ひします」「はい、お預かりします」と、送つてきた保護者一人一人に声をかけこどものリュックに入つた連絡帳に目を通します。帰りのスケジュールやこどもの健康

状態などを把握していきます。こどもは、保育を半日受けの人と一日の人とがいるからです。親のニーズやこどもの発達状況からの選択です。個別に対応していきます。

こどものすること、おとののすること

靴の履き替え、持ち物の始末、ジャケット（衣服）の着脱が、三歳でもひとりでできるのに驚きです。そのわりに、遊んだ後の机や手洗い用のタオル掛けなど、片付けや遊具・用具の移動は大人にやつてもらいます。自分ことは自分でするように大人は手を貸しませんが、重たいものや大きな物の移動はこどもにはさせません。こどもたちが力を合わせればできそうですが、どうしてでしょう？ ここは、訴訟の国アメリカ、安全管理と関わるのでしょう。また、こどもは守られる存在です。親が、我が子を叱るとき手を挙げたりすると、それを近所の人々が観ていると警察に通報され注意を受けて大変なこ

とになります。こどもは社会みんなで守られているよう
です。

幼稚園にも一年に一回は監査が入り、保育者のこども
への保育指導がチェックされます。おとなの学校内での
喫煙は罰せられます。こども専用トイレがあること。大
人はばい菌保有率が高いためにこどものトイレを使用し
てはいけない規則があります。私は来た早々、こどもが
利用するトイレに入ろうとしたとき、「園長先生に叱ら
れます」と、アシスタントから注意を受けました。その
時は、その意味が分からぬままでしたがこのような規則
があることを後で知つて納得しました。

こどもから目を離さない態勢も厳しく守られていま
す。園内にあるトイレに行くときもこどもだけではだめ
で必ずおとながついていきます。集団行動で待つとき
は、廊下の壁に背を付けて座つて待ちます。この姿勢
は、現地校でも見ました。こどもの安全管理がしやすい
からなのでしょうか。日本で見かけない光景が飛び込ん



▲消防署へのお出かけ

できます。安全管理という面から考えると、日本にいる「」どもの方がもっと緩やかで「」どもの園内での行動は自由度が高いと感じました。

朝はコーヒーを片手に

担任は、八時四十五分頃から保育室にいますが、アシスタントは、九時始業にまことに保育室にコーヒーを片手にやつてきます。勤務時間が違うのです。アシスタントの日本人の方はみなさんNY在住の人で、ここで子育てをしている母親です。「」どもの喧嘩への仲裁の仕方が、日本から来たての先生とアシスタントとは違います。私を含め先生は成り行きを見ようと待ちますが、アシスタントは、すぐに喧嘩を止め注意を促します。この違いはどうしてなのでしょうか？　彼女たちは、現地の教育機関で「」どもを育てています。他人に手を挙げたり、ものを壊したり乱暴な振る舞いは厳しく学校から親が呼び出され罰せられると言います。彼

女たちは、文化の違いを子育てを通して体験してきているのです。「先生のようにゆつたりとは待てないわ」と、彼女たちは言います。「」どもを「」とばで分かるように注意します。日本のように、「」どもに喧嘩は付き物。少々の傷はお互い様」ではすまないのです。しかし、日本でもこのようなことばは過去のことになりそうです。

日本人の中にいるアメリカ人

アメリカ人のスタッフがアシスタント一名とESLの先生一名、バスドライバーが二名、厨房に二名います。一緒に保育するアシスタントW先生は二児の陽気な母親で「Hi, Emi」と気軽に声をかけてくれます。片言の日本語がしゃべれます。「Aちゃん、止まってください」「ダメです」等、「」どもの安全に必要な行動を制止する日本語です。きっと彼女が、ここで保育する生活のなかで覚えたのでしょう。ESLのD先生は、「Good Morning Emi, How are You?」と、いつも優しく語りか



▲五歳児クラス ESLは5、6人が一つのテーブルを囲んで始まる

けてくれる私と同世代。たどたどしいわたしの言葉に「A han A han」と相づちを打ちながら聞き取ろうとしてくれます。アメリカ人でも気配りの出来る人がいる」とを発見。D先生のESLの時間はとてもおもしろい。

ESLを受けることどもたち

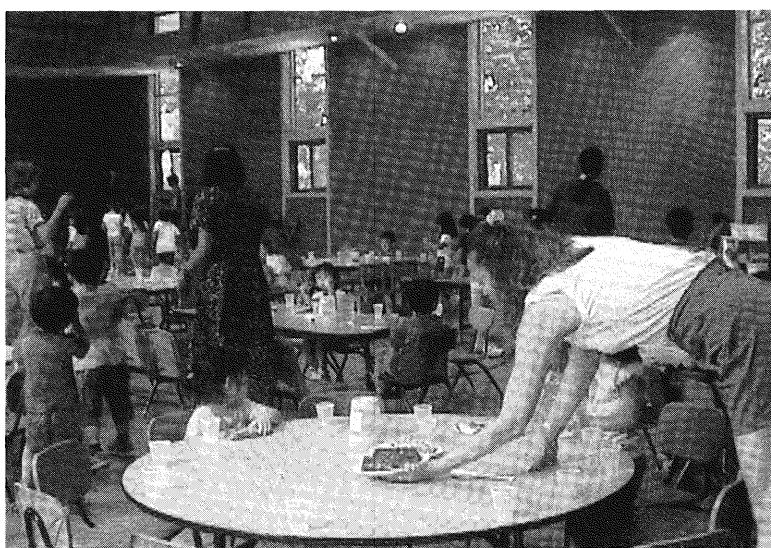
五、六人が一つのテーブルを囲んで始まる五歳児クラス ESL。子どもは、ふだん遊んでいるときは、日本語なのに、ESLになるとすべて、先生からの質問以外の自分からのことばも英語。それが、自然にでてくるのです。D先生がアメリカ人だからかな? 「BINGO BINGO」と、スペルを歌いながら始まるbingoゲームは子どもたちが大好きな遊びです。自分の持ちカードが当たると、「me」。カードがほしいと「six please」とほしい枚数を言い合う。たぶん日本人の先生が教えるところはいかないのでしょうか……。先生の発音を真似るのか「no」や「L」「R」の発音もきれいです。

しかし、四歳児のこどもでは日本語を使つたりわからな
いままに黙つているこどもも多いです。

五月、畑を作ろう

五月、芝生の緑が鮮やかな季節です。私は、芝生に寝転がつてこどもと遊び始めました。でもこちらの先生とこどもたちは、その芝の上にシートを敷いて座るのです。なぜ？ 初夏の頃からシカに寄生するダニが発生してそれに刺されると、「ライム病」にかかり、命を落とすこともあるとのことです。だからむやみに芝生にじかに座つてはだめなのです。こちらのこどもたちは土や泥に触れて遊ぶことがあります。ご存知のように破傷風という病気があるからです。しかし、こどもの手で育てた夏野菜を収穫して食する喜びを味わつてほしいという願いから、ファーマルドの片隅に芝掘り返し土をいれて畑作りが始まりました。

畠をつくり、購入したピーマン、ナス、トマト、レタ



▲ランチタイム

ス、トウモロコシの苗を定植し育てることになりました。先生たちは「せっかく育てても野うさぎに食べられてしまうのでは」と心配し、畑作りに消極的です。野うさぎと格闘になるなんてこれは私には味わえない自然です。昼と夜との激しい温度差、日中の日照りの強さ、水やりが難しいと思っていたのは私だけ。初体験の先生たちは、いつも簡単にこどもたちと昼食後に如雨露で水をやります。どうなることかと案じて帰国の途に着いた私は、夏に入つて、野ウサギにやられることもなく、実がなり収穫できて「おいしい」「おいしい」とこどもたちが食べたとのこと。「来年は、アメリカの野菜に挑戦する」との先生たち。喜びを味わったのは、喜ぶこどもの顔を見た先生たち自身だったようです。食する物を育て成功する喜びは、誰でもどこでも次の意欲を湧き出させる力があるようです。

「NYに住み着くとは思いも寄らなかつた。現地校の片

隅に自分の殻に閉じこもつて精一杯立つてゐる一人の子どもとの出会いが、こどものくに幼稚園の始まりなのです」と、話されるH先生。現地での子育てのいろんな体験を通して「幼児期には母国語を大切に」と訴えられる。同じ思いをしてこられたF先生と秘書のYさん。子育て中のR先生やアシスタントのみなさん。そして、日本から夢を持つて赴任してきた独身の先生たち。「制約の多い中」であつても「さまざまな体験」をこどもたちとともにおとなも共有できるところです。異文化のなかで懸命に楽しく生きているおとなとこどもを感じ「魔女学校 修行 春の巻」を終えました。

(京都教育大学附属幼稚園)

参考文献

『夢をのせていま世界へ』 ニューヨークこどものくに幼稚園

創立25周年記念誌、二〇〇一

岡田光世『ニューヨーク日本人教育事情』岩波新書、一九九三